



あすなろ

特別支援教室あすなろ
令和7年 6月 No.2

こんな「困った」ありませんか？

今年度、特別支援教育や特別支援教室で行っている支援について年6回あすなろだよりでお知らせします。日常生活のお子さんとの関わりの中で、お子さん自身が『困った』と感じていること、保護者の方が『困った』と感じていることがあると思います。あすなろだよりを通して、6つのケースを紹介していきます。お子さんとの関わり方のヒントにしていただけけると幸いです。

それぞれのケースについて、**実態** → **『困った』の背景にあるもの** → **対応、支援** の流れで紹介します。

ケース1 「うっかり？」忘れて、気にしない。

実態

「鞄の中に入れてね」といった学校へのお手紙が、机の上に置きっぱなし。

「～しようね。」と伝えたのに、他のものに夢中になってしまい、やっていない。

声を掛けると、「あっ、忘れていた。」と、反省する様子がない。



『困った』の背景にあるもの

「人の話を意識して聞くこと」と「自分で意識して行動すること」の難しさ。

目的に向かって、どういう手順で物事をすすめていけばいいのかを予想したり、考えたりする力の弱さ。

聞いたことを記憶に保持していることの難しさ。



対応・支援

① 自分で気付けるような言葉をかける。

→「○○くん」と名前を呼ぶ。

② タイマーを使う。

→最初は保護者と一緒にタイマーをセットしながら「○時に△△するんだよね」と、言葉で確認し、タイマーが鳴ったときには、保護者が「○時?」「何をする時間?」などと尋ねます。これによって徐々に意識して行動できるようになっていきます。

③ 本人と話し合ったことを、紙に書いて貼っておく。

→毎日決まったことであれば、紙に書いて貼っておくのもよいでしょう。この場合声掛けは「何番までできた?」という声掛けが効果的です。

④ 「忘れる」以前に、「伝わっていないかもしれない」という視点で子供を観察する。

→大人が伝えたつもりでも、子供には伝わっていないことがあります。子供に何かを伝えるときには、今やっていることをやめて自分に注目させてから話すようにしましょう。

